

窓辺

みやち よしき
宮地 良樹

オマハでの出来事

約40年前の米国留学以来、年に1〜2回は渡米する機会があったので、50回以上米国の土を踏んだ計算になります。米国を訪れて素晴らしいと思うのは、なんととっても美しい国立公園が多く散在していることです。

イエローストン、グランドテイトン、グランドサークル、ロッキーなど、絶景には枚挙にいとまがありません。そんなわけで米国のほとんどの州を回りましたが、観光地の少ない米国中央部はどうしても訪問する

機会がありませんでした。それで、滋賀県立総合病院長を退職した2018年、3週間ほど「人生の夏休み」を決めこんで、テキサスからオクラホマ、カンザス、ネブラスカなどを通って、留学していたミネソタまで約6千キロのドライブを楽しみました。留学時に通勤路だったインターステート35というフリーウェイがメキシコ国境からカナダ国境まで繋がっていると聞いていたので、いつか踏破してみたいという夢を叶えるためでした。

途中、ネブラスカ州のオマハ(静岡市の姉妹都市です)のダイナー(大衆レストラン)に入ったとき、またまたカウンタで隣にいた地元の老夫婦と10分ほど話す機会がありました。「このハンバーグはおいしい」というような話をして彼らは先に出ていったのですが、私たちが食事を終わって会計をしようとしたら、「さつきの方が払って行かれましたよ」と言われて仰天しました。行きずりの旅行者にごちそうする米国人のホスピタリティに心を打たれた、忘れ得ぬ出来事でした。

静岡社会健康医学
大学院 大学長